

甲府市立北東中学校いじめ防止基本方針

平成30年4月

目 次

はじめに	1
1. いじめ防止に関する基本的な考え	2
2. いじめ対策の組織	4
3. 未然防止の取組	5
4. 早期発見の取組	7
5. いじめへの対処	8
6. いじめ対策年間指導計画	11

はじめに

いじめは、生徒の心身の成長に大きな影響を及ぼし、かけがえのない命さえも失いかねない極めて重大な問題であり、決して許されない犯罪行為である。

しかし、いじめは潜在化・陰湿化していることから発見が難しく、早期解決が困難になってきている現状にある。そのような中、毎年いじめが原因で多くの尊い命が失われていることは、非常に憂慮すべきことである。

本校では、平成25年9月28日に『いじめ防止対策推進法』が策定されたことを受け、生徒の身近にいる一人一人の教師が改めていじめの問題の重大性を正しく理解し「いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものである」という認識のもとで、いじめの兆候をいち早く把握して早期発見・早期解消に取り組むことを目指し、北東中学校いじめ防止基本方針を策定する。

いじめの問題の原因や背景については、生徒を取り巻くさまざまな要因が絡み合っていると考えられるが、その解決にあたっては「いじめは絶対に許されない行為である」という強い認識のもと、いじめられている生徒の立場に立って、本人や保護者の気持ちを十分に理解し、きめ細かな対応をとることが必要である。

そのためには生徒に積極的に関わり、教師と児童生徒の信頼関係を深め、気軽に相談できる環境を構築し、生徒の細かな変容をいち早くつかめるようになることが必要である。

学校においては、校長を中心とし、全校体制で命を大切にし、いじめをなくす指導をより一層進めるとともに隠れたいじめがあるかもしれないという危機意識をもって、教師が児童生徒にしっかり寄り添い、いじめやトラブルが初期の段階で確実に解消する取組を進めていきたい。

また、全ての生徒にとって学校が安全で安心して生活できる場所となるよう学校・家庭・地域が一体となった取組の推進に努めることも重要である。

1. いじめ防止に関する基本的な考え

1) いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条）

いじめには、多様な態様があることに鑑み、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場を尊重しなければならない。

なお、具体的ないじめの態様は、以下のようなものがある。

- ア) 冷やかしやからかい
- イ) 悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ウ) 仲間はずれ、集団による無視をされる
- エ) 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- オ) ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- カ) 金品をたかられる
- キ) 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ク) 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ケ) パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる等

2) いじめ防止等の対策に関する基本理念

いじめの問題は、全ての学校・教職員が自らの問題として切実に受け止め、徹底して防止対策や早期発見・早期解消に取り組むべき重要な課題である。

いじめは、どの子どもにもどの学校においても起こり得るものであると十分認識するとともに対応にあたっては、(1)「弱いものをいじめることは人間として絶対許されない」との強い認識を持つこと、(2)いじめられている生徒の立場に立った親身な指導を心がけること、(3)いじめの問題は、教師の生徒観や指導の在り方が問われる問題であること、(4)家庭との連携を十分に行うこと、などを踏まえて適切に行う必要がある。

また、問題行動に起因するいじめ等、校内だけでは解決することが困難な場合の対応については、早期解決のため早めに関係機関との連携を図り、生徒一人一人に応じた適切な指導・支援を積極的に進めていくことも必要である。

<国の方針>

いじめは、全ての児童生徒に関係する問題である。いじめの防止等の対策は、全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、全ての児童生徒がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないように、いじめ等の対策はいじめが、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすることを旨としなければならない。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護することが徳治重要であることを認識しつつ、国、地方公共団体、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行われなければならない。

<県の方針>

いじめは、全ての児童生徒に関係する問題である。いじめは、様々な態様があり、大人が気づきにくいところで行われることが多く発見しにくいことを踏まえ、いじめの防止等の対策は、全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、全ての児童生徒がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないように、いじめの防止等の対策は、いじめが、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすることを旨としなければならない。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、県、市町村、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行われなければならない。

<市の方針>

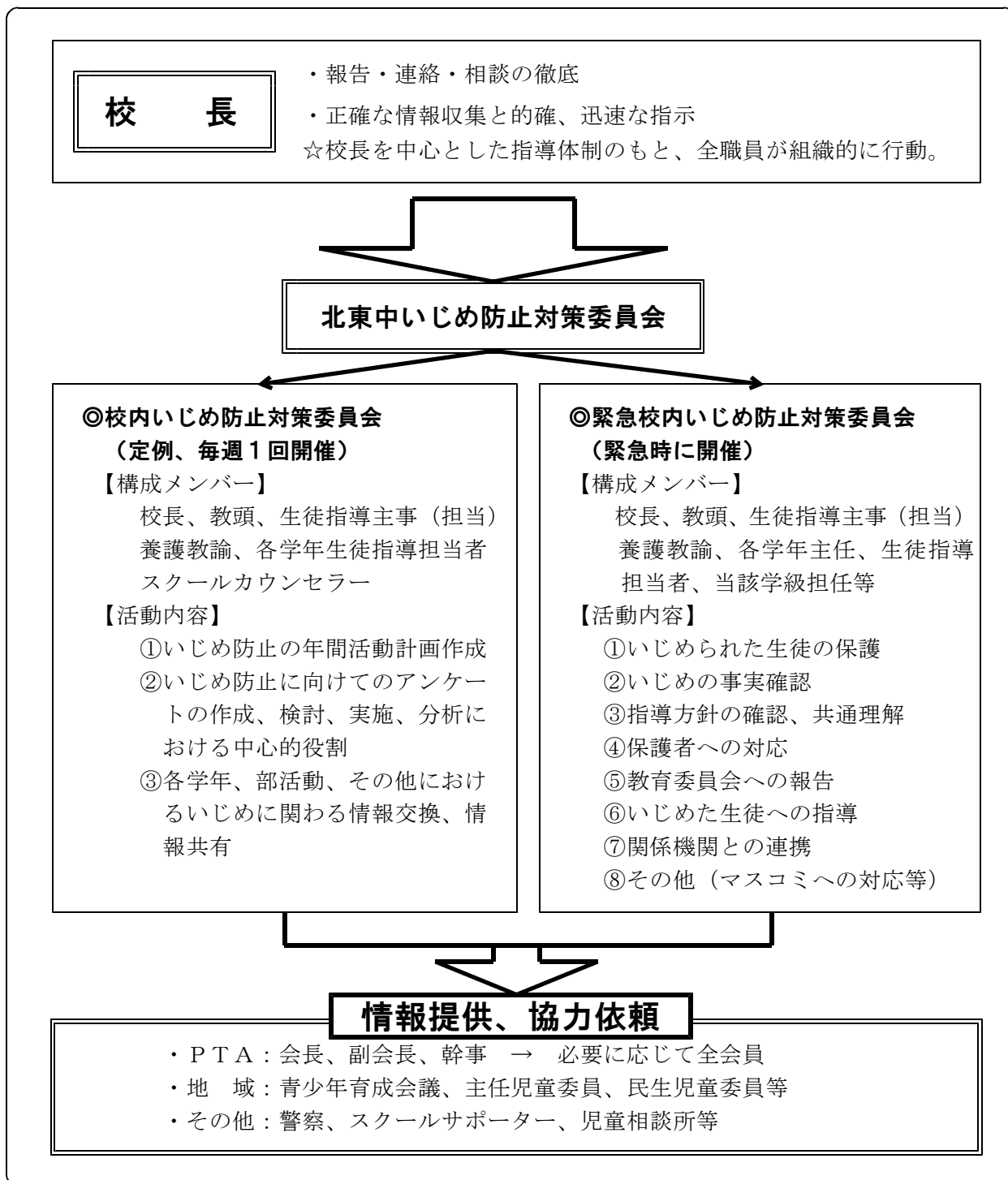
いじめは、決して許される行為ではなく、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある行為であるため、児童等が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、すべての児童生徒がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないように、いじめの防止対策等は、いじめが、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすることを旨として行われなければならない。

いじめはどの子どもにも起こりうる、どの子どもも被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、いじめを受けた児童等の生命及び心身を保護することが特に重要であることを認識し、治療的な関わりだけでなく、未然防止やいじめが起こりにくい集団づくり、安全安心な学校づくりなど、学校、家庭、地域住民が連携を深める中で児童生徒の人間性をはぐくみ、思い遣る心の育成を図りつつ、積極的にいじめの防止対策に取り組まなければならない。

2. いじめ対策の組織

1) 組織 【北東中学校いじめ防止対策委員会を設置する】



3. 未然防止の取組

1) いじめの未然防止に関する基本的な考え

すべての生徒が、安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教師は、授業の充実、学級集団づくり、部活動等あらゆる学校生活場面で、好ましい人間関係を生徒に伝えるとともに、生徒の様子に常に注意を払い、生徒の些細な変化をいち早く把握し、いじめの未然防止に努める。

2) いじめを未然に防止するための方策

①児童生徒の「居場所づくり」「絆づくり」を行い、よりよい集団づくりを行う。

学校・学級が児童生徒にとっての「居場所づくり」を意図的に行うことが重要である。「居場所づくり」とは、文字通り、学級や学年、学校を児童生徒の『心の居場所』となるように教職員が取り組み、児童生徒が安心して過ごすことのできる場所にすることが必要である。

また、「絆づくり」は、お互いを認め合ったり、心のつながりを感じたりした時に獲得する「自己有用感」を感じる時に結ばれるものである。他者から認められていると感じる子どもは、いたずらに他者を否定すること攻撃することが減り、反対に他者を認めることができるようになり、いじめることもなくなるものであることから、教員一人一人が「居場所づくり」「絆づくり」を意識した学級づくりに取り組んでいく。

②道徳教育を充実し、思い遣る心の育成や規範意識の醸成に努める。

学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実は、思い遣る心を育成し、いじめに向かわせない、自律した人間を育てることができる。また、他者の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他者の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する能力を養うことに繋がる。そのために、道徳教育の充実を行い、道徳的実践力の養成に取り組んでいく。

③分かる授業、すべての児童生徒が参加・活躍できる授業を工夫する。

「授業が分かる」という実感を持つことは、自己有用感を獲得する絶好の機会である。児童生徒が学校で過ごす中で一番長いのは、授業の時間となるため、授業が児童生徒のストレスになっていないかをよく吟味し、どの児童生徒も参加し、活躍できる授業改善に努める。

④異年齢集団間、異校種間の連携を深める。

同年齢集団の中で生活することの多い児童生徒の場合、「教える」「教えられる」という図式ができ、固定化することが多い。その場合、「教えられる」子どもは、自己有用感を味わう機会が少なくなる。日々の学習を大切に、どの児童生徒にも「活躍できる場」を提供する。

⑤いじめ問題に対する学校の取組評価を PDCA サイクルで行い、取組内容の検証を行う。

児童生徒の実態にあった「取組評価アンケート」（無記名を原則とする）を作り、年間計画にアンケートの実施を位置づけ、未然防止への取組の検証を行う。児童生徒の実態や保護者のニーズから見えてきた課題や達成目標を常に PDCA サイクルで見直し、今後の指導に活かす。また、学期末に学期ごとの検証結果を市教育委員会に報告する。

⑥全職員でいじめの理解について研修会を実施し、いじめの理解に努める。

いじめという行為について教職員が正しく理解することは必要不可欠である。全教職員がいじめについての共通理解を深め、正しいいじめ理解、適切ないじめ対応に向き合うことができるように研修を行う。

⑦校長を中心とした組織体制を構築し、全職員が一致協力した体制を確立するため、年度の初めの職員会議等で学校基本方針を確認する。

いじめの未然防止、早期発見、早期対応、継続支援について、すべての教職員が共通理解するために、年度の最初にその方策について確認を行う。校長のリーダーシップの下でいじめ対策に取り組みことを確認し、いじめ防止対策のための年間取組計画の作成や実施に当たっての諸注意など全職員の共通理解を深める。

⑧職員会議、校内研究などで、教職員の研修を継続的に実施する。

年間を通じて、職員会議等を利用し、いじめの未然防止、早期発見、いじめへの対処について研修を行う。教職員がいじめについて自らの取組評価を行う機会を設ける。

⑨行事、会議を精選し、児童生徒と向き合う時間の確保に努める。

いじめは大人の目につきにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われることが多い。いじめの起きにくい集団づくりのためには、児童生徒と向き合う時間の確保に努める必要がある。そのため、学校で行われる行事の見直し、会議・研修の見直し、業務の見直し等を図る。

⑩学校だけでは対応できない事案において警察などの関係機関との「緊急時の連携」に備え、「日々の連携」（交通安全教室や防犯教室、地域の情報交換など）をするように心がける。

交通安全教室やサーバー犯罪教室などを年間計画に位置づけ、児童生徒の啓発活動を図る一方、警察と定期的に情報交換を行い、情報共有体制を構築する。

⑪生徒の自主的活動、異校種との連携活動など、自治的活動を支援する。

児童会・生徒会が中心になって行う小中連携活動を通して、生徒が自ら取り組み、その成果を発表する場を設ける。また、少年議会などで提案された諸活動を近隣の学校と連携する中で取り組めるよう、適切に支援する。

⑫インターネットを通じて行われるいじめに対する啓発を推進する。

生徒及びその保護者が、発信された情報の高度の流通性、発信者の匿名性その他のインターネットを通じて送信される情報の特性を踏まえて、いじめを防止し、効果的に対処することができるよう、必要な啓発活動を行う。

4. 早期発見の取組

1) いじめの早期発見に関する基本的な考え

いじめは、潜在化の傾向にあり、発見するのが困難となってきたが、学校でいじめを発見するのは教師の役目である。教師は、感性を磨き、いじめは「どの学校でも、どの子にも起こり得る」という認識のもとで、生徒が発する小さなサインも見逃さず、「いじめ発見100%」をめざして取り組まなければならない。

2) いじめを早期に発見するための方策

①普段から児童生徒への態度や関わり方を工夫し、いじめの早期発見に努める。

児童生徒と直接関わり、指導する中で、生活ノート、個人面談など日々の児童生徒理解を通じて、いじめの早期発見に努める。いじめアンケートなどは、いじめ発見には重要な手段ではあるが、あくまでも補助的なものであることを認識し、校長のリーダーシップの下で対処し、学校をよりよく改善していく当事者として、日々、児童生徒や児童生徒の問題と向き合い、いじめの早期発見に努める。

②いじめを早期発見するために、定期的な調査その他必要な措置を講じる。

速やかに実施・集計のできる「いじめアンケート」を定期的実施する。その目的が教師の気づかない（潜在的な）いじめがどの程度起きているのかを把握するものであることを理解し、状況に応じて必要な措置を講じる。「いじめアンケート」は、学期末に学期ごとの調査結果を市教育委員会に報告する。

③いじめの相談を受けることができる相談体制を整備し、いつでも相談できる体制を整備する。

学校生活の時間の中で、児童生徒がいつでもいじめについて相談できる体制を整備する。学年主任、生徒指導主事、養護教諭、スクールカウンセラーなど、いじめの相談をいつでも受けることができることを児童生徒に周知し、安心・安全を確保できる体制を整備し、速やかにいじめを認知し対応する。

5. いじめへの対処

1) いじめの対処に関する基本的な考え

- ◎いじめの発見・相談を受けた場合には、一人で抱え込まず速やかに組織的に対応する。
- ◎被害生徒を守り通すとともに、毅然とした態度で加害生徒を指導する。

2) いじめに対処するための方策

①いじめに対処する手順を明確にし、校長のリーダーシップの下、速やかに対処し、早期解決を図る。

①事実確認②反省指導③謝罪の会など、全職員がいじめ対応の手順を明確に理解し、全職員で確認しておく。管理職のリーダーシップの下で指導を進め、常に報告・相談を繰り返し、問題の早期解決に当たる。

②いじめの対応が難しくなったり、長期化すると予見されるときは、いじめ対策支援チームに依頼し、解決を図る。

解決が困難なケース、その可能性が予見されるケースがあると判断したときは、ためらうことなく、いじめ対策支援チームに支援を求め、問題の早期解決に当たる。その際、家庭訪問など保護者に直接関わることも含め、早期解決に向けて取組を行う。

③インターネットなどを介して行われるいじめの解決にして、市教育委員会に関係機関との連携を依頼し、その解決を図る。

SNSなどを介して行われるいじめに対しては、書き込みした児童生徒に削除を求めるほか、掲示板などへの書き込みに対しては、市教育委員会（いじめ防止連携会議）を通して、警察や地方法務局などの関係機関等に連絡・相談して削除を依頼するなど適切な措置を講じます。

④いじめが犯罪行為として取り扱われるべきもの、重大な被害と認められるときは、市教育委員会と連絡を取り、所轄警察署、関係機関等と相談して対処する。

学校のいじめ対応を行う組織が加害児童生徒に対して教育上必要な指導を行っているにも関わらず十分な効果を上げることが困難と考えられる場合や、いじめが犯罪として取り扱われるべきもの、重大事態と認められる場合は、市教育委員会に連絡し、必要な助言・支援を受け、いじめ事案に対応する。

また、重大事態に対しては、いじめ対策支援チームと連携し、関係機関との連携の下、適切に対応する。加害児童生徒に対しては、校長の判断の下に別室指導をさせたり、教育委員会の責任と権限において出席停止の措置を取るなど「被害児童生徒を守る」「いじめは絶対に許さない」という姿勢で対応する。

⑤加害児童生徒、被害児童生徒の保護者に対して十分な説明、指導を行う。

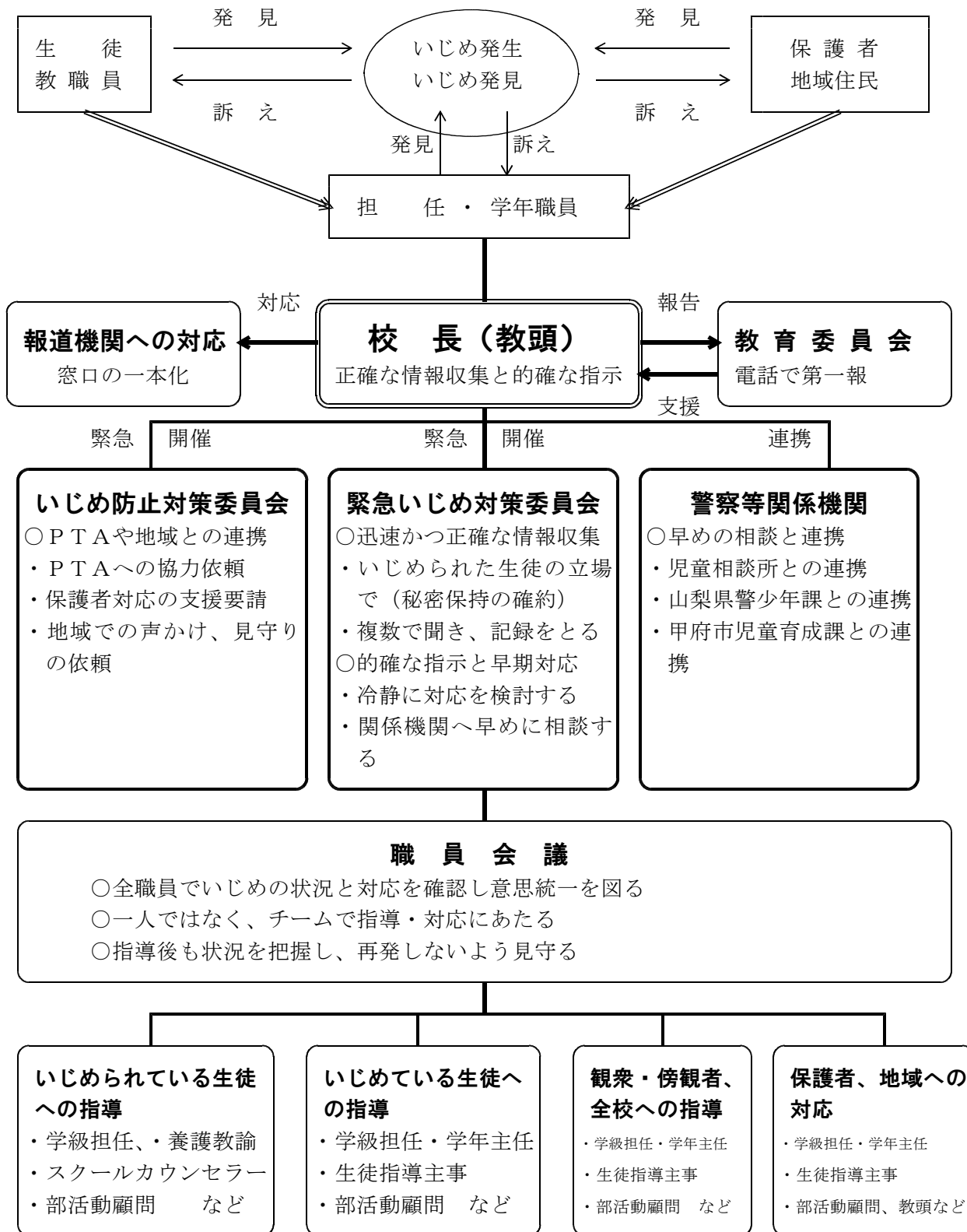
被害児童生徒及びその保護者の相談には真摯に傾聴し、失いつつある自尊感情を高めるよう留意しながら、徹底して守り通すことや秘密を守ることなど、できる限り不安を除去するとともに被害児童の見守りなど当該児童生徒の安全を確保する。

一方、加害児童とその保護者には事実関係を聴取し、保護者の理解や納得を得た上、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう保護者の協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。

⑥いじめが起きた集団への働きかけを行う。

いじめを見ていた児童生徒に対しても、自分の問題として捉えさせる必要がある。たとえ、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つように指導する。また、はやしたてるなど同調した児童生徒に対してはそれらの行為がいじめに加担した行為であることを理解させなければならない。また、学級全体で話し合わせるなど、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるように努める。

【いじめ対応の手順】



6. いじめ対策年間指導計画

○年間計画には、「サイバー犯罪教室」「いじめ防止講話」「学校いじめ防止委員会（仮称）」「いじめアンケートの実施」「いじめ防止取組評価会議」「道徳集会」「たよりの発行」などが考えられます。

月	○いじめ対策委員会 ※緊急事態発生時 には、随時開催。	○道徳教育の推進	○携帯、スマホの使い方 ※講師を招聘し、学年 ごとに実施。	○いじめの 実態調査	○生活、学 習相談等
4	毎週1度開催	週1時間の授業			
5					
6			2年生情報モラル教室	アンケート	2者懇談
7			1年生情報モラル教室		
8					
9					
10			3年情報モラル教室		
11					
12				アンケート	2者懇談
1					
2				アンケート	2者懇談
3					